

平成17年国勢調査 従業地・通学地集計結果（広島県）の要約

1 通勤・通学人口

(1) 広島県の通勤・通学人口

～通勤者の約8割が自市町通勤者～

平成17年国勢調査によると、広島県の15歳以上の就業者（1,398,474人）のうち自宅就業者は155,714人で、それを除いた1,242,760人が通勤者となっている。

通勤者の従業地をみると、自市町が987,639人（通勤者の79.5%）、県内他市町が235,339人（同18.9%）、他都道府県が19,782人（同1.6%）となっている。

平成12年と比べると、通勤者数全体では、5,740人（△0.5%）の減少となっているが、内訳をみると、自市町の割合が拡大し、県内他市町の割合が縮小している。これは、市町村合併が大きく影響したものと考えられる。

～自市町通学者が77.1%～

広島県の15歳以上の通学者（153,542人）の通学地をみると、自市町が118,441人（通学者全体の77.1%）、県内他市町が30,620人（同19.9%）、他都道府県が4,481人（同2.9%）となっている。

平成12年と比べると、通学者数全体では21,370人（△12.2%）減少しているが、内訳をみると、自市町の割合が拡大し、県内他市町の割合が縮小しており、通勤者と同様、市町村合併が大きく影響したものと考えられる。

図1 従業地別通勤者の割合

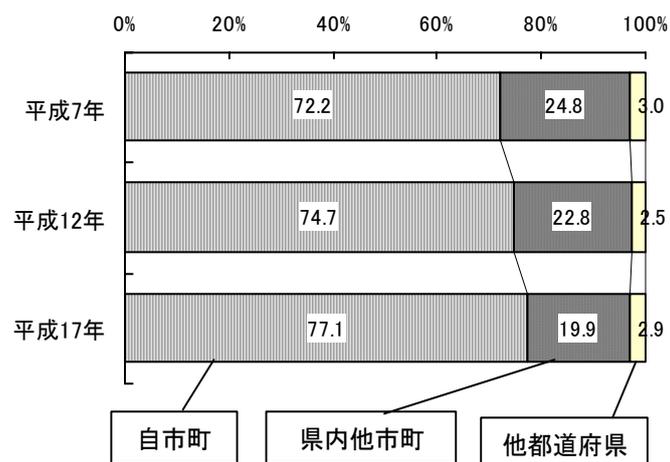
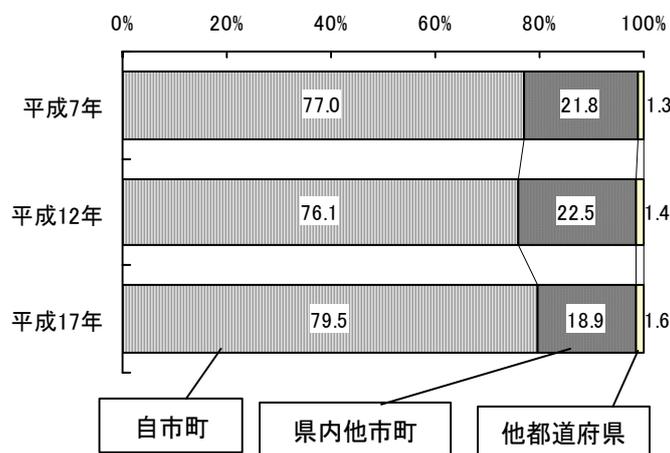


表1 従業地・通学地別15歳以上通勤・通学者数及び割合

(単位:人, %)

従業地・通学地	実数			割合		
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)
通勤者	1,242,760	1,248,500	1,270,370	100.0	100.0	100.0
自市町	987,639	950,077	977,773	79.5	76.1	77.0
県内他市町	235,339	280,418	276,374	18.9	22.5	21.8
他都道府県	19,782	18,005	16,223	1.6	1.4	1.3
通学者	153,542	174,912	201,901	100.0	100.0	100.0
自市町	118,441	130,686	145,732	77.1	74.7	72.2
県内他市町	30,620	39,869	50,028	19.9	22.8	24.8
他都道府県	4,481	4,357	6,141	2.9	2.5	3.0

(2) 市町別通勤・通学人口

～大竹市の就業者の15.6%が他都道府県通勤者～

市町別の就業者の従業地別割合について、それぞれの従業地の割合が大きい市町をみると、自宅就業者の割合が最も大きいのは神石高原町で39.5%、自宅以外の自市町通勤者は広島市で81.6%、県内他市町通勤者は坂町で61.8%、他都道府県通勤者は大竹市で15.6%となっている。

表2 就業者の従業地別割合の高い市町（上位5位）（単位：%）

順位	自宅		自市町(自宅外)		県内他市町		他都道府県	
	市町名	割合	市町名	割合	市町名	割合	市町名	割合
1	神石高原町	39.5	広島市	81.6	坂町	61.8	大竹市	15.6
2	瀬戸田町	33.5	福山市	76.3	府中町	58.8	神辺町	6.9
3	大崎上島町	27.9	呉市	73.7	海田町	58.5	大野町	4.1
4	庄原市	27.6	三原市	69.9	熊野町	57.2	福山市	3.5
5	北広島町	27.3	因島市	67.2	大野町	55.6	因島市	3.1

～因島市の通学者の16.3%が他都道府県通学者～

市町別の通学者の通学地別割合について、それぞれの通学地の割合が大きい市町をみると、自市町通学者の割合が最も大きいのは広島市で90.5%、県内他市町通学者は坂町で81.4%、他都道府県通学者は因島市で16.3%となっている。

表3 通学者の通学地別割合の高い市町（上位5位）（単位：%）

順位	自市町		県内他市町		他都道府県	
	市町名	割合	市町名	割合	市町名	割合
1	広島市	90.5	坂町	81.4	因島市	16.3
2	庄原市	90.1	宮島町	80.0	神辺町	11.5
3	大崎上島町	86.8	大野町	74.7	福山市	9.9
4	福山市	82.2	江田島市	69.2	大竹市	9.0
5	東広島市	79.9	府中町	66.6	宮島町	7.7

2 流出・流入人口

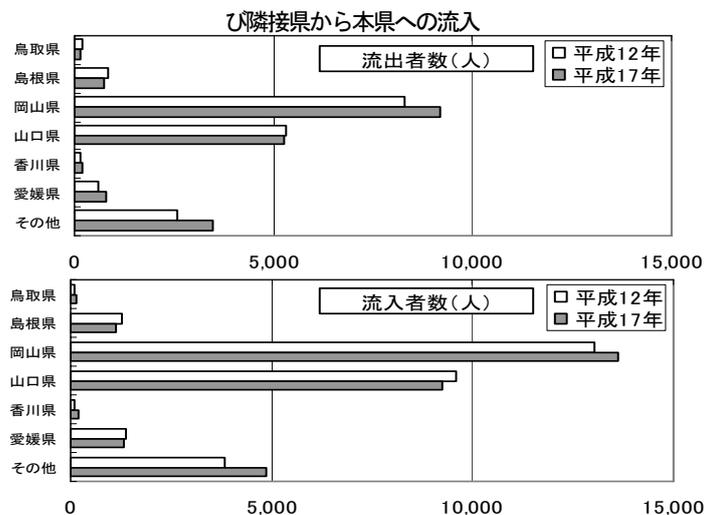
(1) 他県との流出人口

～通勤者は流出・流入とも岡山県が最も多い～

他都道府県を従業地として広島県から流出している通勤者を県別にみると、岡山県への流出が最も多く9,198人、次いで山口県の5,263人、愛媛県の781人となっている。

一方、広島県を通勤地として他都道府県から流入している通勤者を県別にみると、岡山県からの流入が最も多く13,601人、次いで山口県の9,238人、愛媛県の1,315人となっている。

図3 通勤者の本県から隣接県への流出及

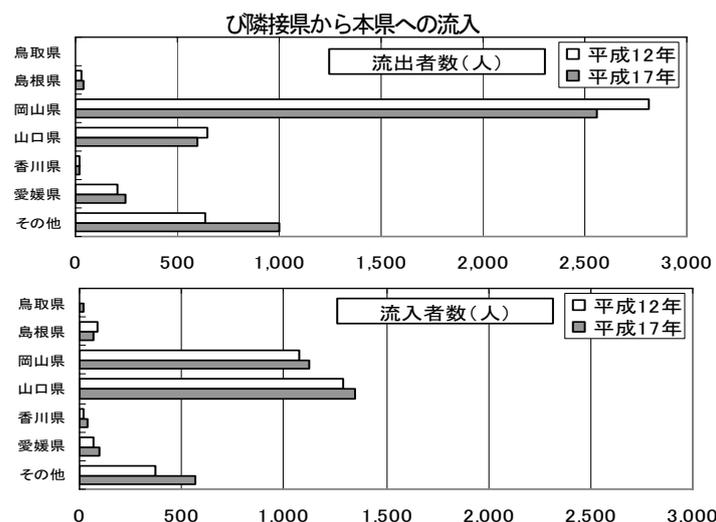


～通学者は流出は岡山県、流入は山口県が多い～

他都道府県を通学地として広島県から流出している通学者を県別にみると、岡山県への流出が最も多く2,559人、次いで山口県の600人、愛媛県の244人となっている。

一方、広島県を通学地として他都道府県から流入している通学者を県別にみると、山口県からの流入が最も多く1,350人、次いで岡山県の1,124人となっている。

図4 通学者の本県から隣接県への流出及



(2) 市町別流入人口

～広島市の流入超過数が最も多い～

流入・流出人口を市町別にみると、流入超過数が最も多いのは、広島市の29,073人で、次いで、福山市の7,149人、府中町の3,685人となっており、流出超過数が最も多いのは、廿日市市の10,737人で、次いで熊野町の5,732人、呉市の5,143人となっている。

表4 市町別流入超過数の多い市町（上位5位）

(単位:人)				
順位	市町名	流出口	流入人口	流入超過数
1	広島市	63,970	93,043	29,073
2	福山市	30,509	37,658	7,149
3	府中町	16,397	20,082	3,685
4	府中市	6,712	8,893	2,181
5	坂町	3,927	5,842	1,915

表5 市町別流出超過数の多い市町（上位5位）

(単位:人)				
順位	市町名	流出口	流入人口	流出超過数
1	廿日市市	24,858	14,121	10,737
2	熊野町	7,959	2,227	5,732
3	呉市	21,414	16,271	5,143
4	神辺町	12,142	7,089	5,053
5	大野町	8,441	4,231	4,210

3 昼間人口

(1) 広島県の昼間人口

～昼間人口は2,872,032人、夜間人口を9,367人上回る～

平成17年の広島県の昼間人口は2,872,032人、夜間人口は2,862,665人、昼間人口と夜間人口の差をみると、昼間人口が夜間人口を9,367人上回っている。

平成17年の昼夜間人口比率（夜間人口（常住人口）100人当たりの昼間人口）は100.3となり、平成12年と同水準となった。

表6 昼間人口、夜間人口の推移

区分	(単位:人, %, ポイント)								
	実数			増加数		増加率			
	平成17年 (2005)	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成7年 ～12年		
昼間人口	2,872,032	2,885,973	2,891,222	△ 13,941	△ 5,249	△ 0.5	△ 0.2		
夜間人口	2,862,665	2,876,368	2,879,318	△ 13,703	△ 2,950	△ 0.5	△ 0.1		
昼夜間差	9,367	9,605	11,904	△ 238	△ 2,299	△ 2.5	△ 19.3		
昼夜間人口比率	100.3	100.3	100.4	△ 0.0	△ 0.1	-	-		

※昼間人口及び夜間人口は、年齢不詳を除いているので、夜間人口（常住人口）と国勢調査確定人口（2,876,642人）とは、一致しない。

表7 市区町村別昼夜間人口比率の高い市区町（上位5位）

順位	平成17年		平成12年		平成7年	
	市区町	昼夜間人口比率	市区町	昼夜間人口比率	市区町	昼夜間人口比率
1	広島市中区	194.6	広島市中区	201.3	広島市中区	205.4
2	宮島町	122.0	宮島町	120.0	坂町	115.1
3	坂町	115.2	広島市南区	114.7	宮島町	113.7
4	広島市南区	113.8	坂町	109.4	広島市南区	112.9
5	府中町	106.8	北広島町	107.8	府中町	109.7

(2) 市区町村別昼夜間人口比率

～広島市中区の昼間人口は夜間人口の約2倍～

昼夜間人口比率を市区町別にみると、最も高いのは広島市中区の194.6、次いで宮島町の122.0、坂町の115.2となっている。

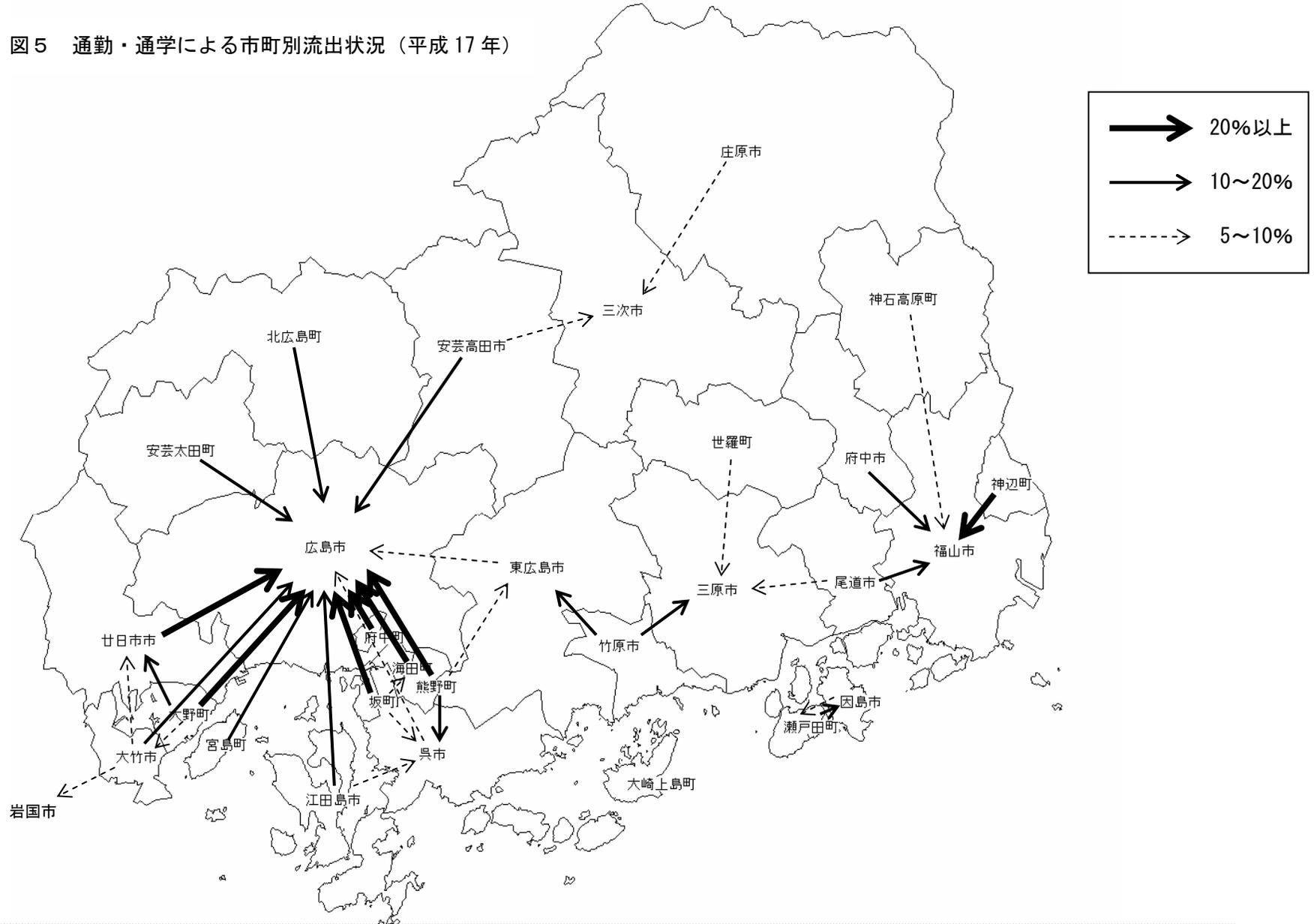
一方、最も低いのは熊野町の77.1、次いで広島市佐伯区の80.0、大野町の83.7となっている。

県内35市区町のうち、昼夜間人口比率が100を下回っているのは18市区町となっており、うち9市区町で90を下回っている。

表8 市区町村別昼夜間人口比率の低い市区町（上位5位）

順位	平成17年		平成12年		平成7年	
	市区町	昼夜間人口比率	市区町	昼夜間人口比率	市区町	昼夜間人口比率
1	熊野町	77.1	熊野町	75.0	熊野町	73.1
2	広島市佐伯区	80.0	広島市佐伯区	78.8	広島市佐伯区	76.6
3	大野町	83.7	神辺町	82.3	神辺町	79.5
4	広島市安芸区	84.1	広島市安芸区	82.4	広島市安芸区	80.7
5	広島市安佐北区	84.2	広島市安佐北区	82.7	広島市安佐北区	81.2

図5 通勤・通学による市町別流出状況（平成17年）



※ ある市町（A市）の就業者・通学者のうち、他の市町（B市）へ通勤・通学する者の比率（B市への通勤・通学者/A市の就業者・通学者×100）により、通勤・通学の状況を矢印であらわした。（ただし、B市への通勤・通学者が5%未満の場合を除く。）